

審査運用基準

1 資格審査

(1) 共通

- ア 原則として補助金交付決定以前に着手した経費は補助対象外とする。ただし、販路開拓事業、人材育成事業に係る申請期限等のやむを得ない理由から補助金交付決定前に事業着手し、事業着手直後の審査会までに申請した場合、その経費も補助対象とする。
- イ 原則として事業目的以外で使用できる汎用性のある機械装置等の購入は補助対象外とする。
- ウ 補助対象となる機械等装置費は購入費及びリース料とする。
- エ 旅費の種類は、鉄道賃、船賃、航空賃、車賃（バス運賃）、宿泊料とする。
- オ 旅費は、その実費額を補助対象とする。
- カ 宿泊料の補助対象金額の上限については、以下のとおりとする。

宿泊地域区分			宿泊料の 補助対象金額の上限 (一泊あたり)
国内	県外	東京都、政令指定都市	10,700 円
		上記以外	8,700 円
	県内		7,600 円
国外	指定都市		17,100 円
	甲地方		13,900 円
	乙地方		10,700 円
	丙地方		9,400 円

※国外の地域区分については以下のとおり

国外地域区分		指定都市	甲地方	乙地方	丙地方
北米地域		ロサンゼルス ニューヨーク サンフランシスコ ワシントン	○		
欧州 地域	西欧	ジュネーブ ロンドン パリ	○		
	東欧	モスクワ		○	

中近東地域		アブダビ ジッダ クウェート リヤド	○		
アジア 地域	東南アジア、 韓国・香港	シンガポール		○	
	南西アジア、 中国				○
中南米地域					○
大洋州地域				○	
アフリカ地域		アビジャン			○
南極地域					○

キ 鉄道賃、船賃、航空賃、車賃のうち、グリーン車、ビジネスクラス等、特別に付加された料金については補助対象外とする。

ク タクシー料金及び営業車で移動についての燃料費、高速道路等利用料並びにレンタカー借上げ料（商品等の運搬を目的としたものを除く）は補助対象外とする。

ケ 日当、飲食代(ホテルの朝食代は除く)等は補助対象外とする。

コ 補助金交付は1年度につき異なる2補助対象事業に限りすることができる。また、申請書は1事業ごとに提出するものとする。

対象外品目の例示

- ・汎用性があり、目的外使用になり得るもの（例：パソコン、タブレットPC及び周辺機器、自転車等）
- ・鉄道賃、船賃、航空賃、車賃のうち、グリーン車、ビジネスクラス等、特別に付加された料金
- ・タクシー料金及び営業車で移動についての燃料費、高速道路等利用料並びにレンタカー借上げ料（商品等の運搬を目的としたものを除く）
- ・日当、飲食代(ホテルの朝食代は除く)等

(2) 商品研究開発事業

ア 「新商品の開発」とは、新たな顧客、販売ルート等が見込めるものとする。

イ 補助対象となる「既存商品の改良」とは、付加価値効果のあるパッケージデザ

イン等を開発又は改良するものをいう。（パッケージの印刷等は補助対象外とする。）

ウ パンフレット、カタログ等のデザインの作成に要する経費は補助対象外とする。

エ 補助対象となる消耗品費は、補助対象経費の総額の 1/3 又は 20 万円のいずれか小さい金額を上限とする。

オ 店舗の内装等のイメージアップに資するデザインの設計等に関わる費用は補助対象とする。ただし、それに伴う工事費等は補助対象外とする。

支援事業区分	支援事業対象経費	補助率及び補助金の交付限度額
商品研究開発事業	研究開発費用（原材料費、機械等装置費、外注費、技術指導受入費及び共同研究費）、市場動向調査費用（専門家謝金、旅費、委託費）、デザイン購入費及び消耗品	1/2以内 30万円

対象外品目の例示

- ・パッケージの印刷費等、実際に販売する商品等になりえるもの
- ・パンフレット、カタログ等のデザインの作成に要する経費

(3) 産業財産権取得事業

ア 補助対象となる「産業財産権」とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権のことをいう。

イ 特許料は登録時に 3 年分支払いが必要となるが、補助対象は 1 年分とする。

ウ やむを得ない理由（特許庁の審査に時間を要する場合等）で年度内に事業が完了しない場合、その年度内に完了した部分の経費のみを補助対象とする。

支援事業区分	支援事業対象経費	補助率及び補助金の交付限度額
産業財産権取得事業	専門家委託費、出願費用、先行技術調査費、特許料及び登録料	1/2以内 20万円

対象外品目の例示

- ・申請年度の翌年度に係る特許料等
- ・申請年度内に完了しなかった（支払いが完了しなかった）部分の経費

(4) HACCP等導入支援事業

ア 要綱第4条別表第1の「HACCP等の衛生管理基準」とは、「食品衛生管理の国際標準化に関する検討会最終とりまとめについて(平成28年12月12月26日付け厚生労働省資料)」の基準B(HACCPの考え方に基づく衛生管理(一般衛生管理を基本として、業界団体が事業者の実情を踏まえ、厚生労働省と調整して策定した使いやすい手引書等を参考にしながら必要に応じて重要管理点を設けて管理する衛生管理))に相当以上のものをいう。

イ 補助対象となる「機械等装置費」、「設計費」、「工事費」とは、HACCP等の衛生管理基準に照らし、その改善に必要であると客観的に認められるものをいう。客観的に認められるものとは、「保健所の指導に基づくもの」、「専門家の意見書」、「衛生管理計画書」等とする。

支援事業区分	支援事業対象経費	補助率及び補助金の交付限度額
HACCP等導入事業	機械等装置費、専門家委託費、設計費、工事費、運搬費及び審査登録費	1/2以内 30万円

対象外品目の例示

・申請年度の翌年度に係る審査登録費等

(5) 販路開拓事業

ア 補助対象となる「展示会等」とは、市外で開催され、かつ、不特定多数の顧客が集まる商談会、展示会のことをいう。

イ 物品の販売を主たる目的とする展示会等は補助対象外とする。(例：しまねふるさとフェア、マルシェ等)

ウ 旅費は、1つの展示会等当たり2名分を上限とする。

エ 補助対象となる広報費は新たな顧客獲得を目的としたPR等を図る経費(パンフレット、チラシ、看板、ホームページ等)とする。ただし、補助対象期間中の広報活動にかかる経費のみ補助対象とする。

オ 販路開拓の全部又は大半を他に委託するものは補助対象外とする。

支援事業区分	支援事業対象経費	補助率及び補助金の交付限度額
販路開拓事業	出展料、物品リース料、外注費、旅費、運搬費、広報費及び印刷製本費	1/2以内 20万円

対象外品目の例示

<ul style="list-style-type: none"> ・ 物品の販売を主たる目的とする展示会への出展に係るもの ・ 特定の顧客訪問（商談）を目的とした旅費 ・ 展示会等での試供品・販促品 ・ 展示会の事前セミナー等参加のための旅費 ・ ホームページのランニングコスト及び、サーバー代等

(6) 職場環境整備事業

ア 導入することにより労働生産性向上が図られる設備等を補助対象とする。ただし、人員削減を目的とした合理化のための設備導入は、補助対象外とする。

イ 既存設備の撤去費用は補助対象外とする。

支援事業区分	支援事業対象経費	補助率及び補助金の交付限度額
職場環境整備事業	機械等装置費、設計費、工事費及び運搬費	1/2以内 30万円

対象外品目の例示

<ul style="list-style-type: none"> ・ 人員削減を目的とした合理化等のための設備 ・ 既存設備の撤去費用

(7) 人材育成事業

ア 業務上必要と認められる資格・技能の取得に係るものを補助対象とする。

イ 資格取得者の個人負担を求めている場合、補助対象外とする。

ウ 1人あたりの補助対象経費の上限は5万円とする。

支援事業区分	支援事業対象経費	補助率及び補助金の交付限度額
人材育成事業	受験料、研修等受講料、旅費、講師等謝金（社内研修時）	1/2以内、 10万円

対象外品目の例示

<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人負担を求めているもの ・ 汎用性のある資格等の取得に係るもの（普通自動車第一種運転免許など）

(8) 連携等プロジェクト事業

ア 業務を協業化し、強化を図るため、企業等数社による新会社設立のために必要な経費について補助対象とする。ただし、人員削減を目的とした合理化等のための組織化は、補助対象外とする。

イ 複数の企業等が参加可能な勉強会、視察のみ補助対象とする。

ウ 新聞図書費とは、研究や調査、統計などを目的に購入される新聞や書籍等の費用のこととする。

支援事業区分	支援事業対象経費	補助率及び補助金の交付限度額
連携等プロジェクト事業	専門家派遣費用（謝金及び旅費）、新聞図書費、印刷製本費、会場使用料、視察費用（謝金及び旅費）及び登記費用	1/2以内 20万円

対象外品目の例示

・ 人員削減を目的とした合理化等のための組織化に係るもの

2 事業内容審査

(1) 共通項目

ア 実現可能な事業計画になっているか。

イ 企業内の役割分担など実施体制が整備され、事業遂行能力を有しているか。

ウ 事業の将来的（次年度以降）なビジョンは妥当か。

エ 事業の新規性・優位性はあるか。

オ 売上高の増加、事業化（経常利益の計上）が期待できるか。

(2) 事業別項目

ア 商品研究開発事業	開発する新商品が市場ニーズに合致しているか
イ 産業財産権取得事業	競合する商品に対し、競争力があるか
ウ HACCP等導入事業	HACCPチームの結成など、HACCPを取り入れた衛生管理を推進していく体制作りの計画があるか
エ 販路開拓事業	新たな市場へ向けての事業であるか
オ 職場環境整備事業	生産性向上の計画は妥当であるか
カ 人材育成事業	従業員の専門性やスキルを高め、雇用維持や企業の競争力強化に資するものであるか
キ 連携等プロジェクト事業	地域内の経済波及効果があるか